

幸重社会福祉士事務所

2015年メディア掲載まとめ

区分	掲載	発行日	表題・見出し	出典
新		1月11日	必要なのは普通の生活	山陽新聞
新	★	1月13日	貧困世帯の子供と一緒に夕食を 龍谷大生ら大津で活動	産経新聞
新		1月17日	あったかい子どもの夜の居場所	しんぶん赤旗
新		2月15日	「夜の居場所 学生支える」「広がる夜の居場所づくり」	京都新聞
本	報	2月15日	夜の子どもたちに 安心と安全を与える 居場所づくり	滋賀県人権センター情報誌「じんけん」2月号
本		2月発行	調査から見えてくる子どもたちのしんどさ	大阪子どもの貧困アクショングループ CPAO 報告書
新		3月13日	「子どもの暮らし守ろう」「赤磐でフォーラム“脱”貧困テーマに」	山陽新聞
新	★	3月18日	子どもの貧困対策に取り組む 幸重 忠孝さんに聞く	新潟日報
本		3月発行	子どもの貧困対策のモデル事業を作る社会福祉士事務所	子供の貧困対策に取り組む支援団体の活動事例に関する調査研究・活動事例集・内閣府
新		4月03日	「子どもの貧困解消 官民で」「水準最悪 政府、基金新設」	朝日新聞
新		4月04日	今日のノート「子どもの未来」	読売新聞
本	報	6月10日	論稿「子どもの貧困への 地域での取組」	季刊 人間と教育
新		6月22日	子どもの居場所づくりに取り組む	中日新聞
本	報	6月発行	みんなでつくる 子どものための夜の居場所	福祉しが 281号
新		7月19日	「京都新聞 愛の奨学金」贈呈式 学ぶ意欲、諦めさせぬ 123人に善意の応援	京都新聞
本		7月発行	みんなの食堂プレオープン	えにし通信 vol.3
新	★	8月27日	現代のこぼれ①「スクールソーシャルワーカー」	京都新聞
T	Y	9月17日	すくすく子育てサプリ!「トワイライトステイ」	びわこ放送
新	★	10月01日	トワイライトステイ「居場所」全ての子に 越・大津市長が視察	毎日新聞
新		10月19日	夜間の孤立 解消を	埼玉新聞
新	★	10月23日	現代のこぼれ②「子どもの貧困」	京都新聞
本	報	10月号	スクールソーシャルワーカーが学校にやってくる!	部活と進路応援 COMPASS navi マガジン vol.1
本	報	10月発行	スクールソーシャルワーカーに期待される役割	世界の児童と母性 VOL.79 資生堂社会福祉事業財団
新		11月01日	子どもの貧困見逃さないで	福井新聞
新		11月29日	大津の夜の居場所づくり	京都新聞
新		12月12日	「広がるトワイライトステイ」「子の孤立 地域で防ぐ」	読売新聞
新		12月28日	現代のこぼれ③「トワイライトステイ」	京都新聞

新 新聞
 T テレビ・ラジオ
 本 書籍・報告書・雑誌

★ 本誌掲載記事。

報 別誌「幸重社会福祉士事務所報告書」に掲載しています。

Y YouTubeにてご覧いただけます。 <https://youtu.be/NTLj9oK-FIE>

貧困世帯の子供と一緒に夕食を

家庭環境の事情から、満足に食事や教育を与えられない子供たちに手を差し伸べようと、龍谷大の学生たちがこうした境遇の子供たちと一緒に夕食の食卓を囲む取り組みを進めている。活動資金や人員の確保といった課題はあるが、学生らは「活動を通して、社会をよくするための糸口を見たい」と話している。

(小川勝也)

インサイド 滋賀

「ああ、ご飯にしよう」
「たつを囲んでおこなわれていたトランプ遊びの最中、こゝろ声がかかり、卓上は夕食準備に変わった。

今月8日夜、龍谷大が所有する大津市京町の「町家キャンパス龍龍（ロンロン）」で、同大学の学生ら5人と、10代半ばの少年3人が一緒に鍋をつつき、「やっぱり寒い日は鍋やね」「この肉、誰か食べなよ」「白菜も食べなよ」と、たわいない会話を交わしながら、箸を手にした少年たちは、すぐにご飯を平らげておかわりを求める。鍋の周りで笑顔が弾けた。

生活保護世帯や1人親家庭など、生活困窮の問題を抱える家

の子供たちと週1回、一緒に夕食を取る「トワイライトステイ」という試みは、厚生労働省のモデル事業として、大津市社会福祉協議会などが昨年3月に始めた。現在では、龍龍など市内3カ所で取り組まれている。

この試みを提案した社会福祉士の幸重忠孝さん(41)をはじめ、龍谷大の学生ボランティア団体「トワイライトホーム」や子育て支援を手がける市内のNPO法人が連携して活動に当たっている。

経済協力開発機構(OECD)は、その国や地域の平均的な所得の半分を下回る世帯を「相対的貧困家庭」と規定。これに基づき、厚生労働省が実施した調査では、相対的貧困家庭で暮らす子供の比率「子供の貧困率」は平成24年で16.3%と、過去最悪を記録した。

子供の6人に1人が、相対的貧困家庭で暮らしている計算。その多くが、1人で夕食を取ったり、

龍谷大生ら大津で活動



食卓を囲む学生たちと少年(右)。鍋をつつきながら会話が弾む

必要な栄養が摂取できていなかったりしている。さらに、そうした状況下の子供は、学校の勉強についていけず、それが原因で「いじめ」に遭うケースも多く、「子供の貧困」が深刻な社会問題となっている。

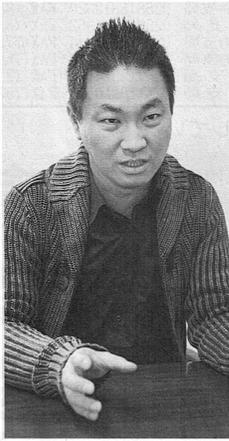
トワイライトステイの活動時間も午後5〜9時。夕食の買い出しや調理などを学生や子供たちが分担しておこなったり、一緒に勉強やトランプをしたりして家庭的な雰囲気の中で一時を過ごしている。

子供たちが帰ったあと、学生たちやNPOのメンバーは反省会を開く。子供たちについて、その日の様子や以前と比べた変化などの情報を共有。次回の活動時にその子供とどう接するかなどについて協議しておく。

また、同学部2年の長野康平さん(20)は「子供の気持ちを大人が理解してやれる場として価値がある」と活動の意義を強調。子供たちは参加を重ねる「こころを開いていき、家庭の悩みや将来への不安などを学生たちに口にすることになった」という。この活動に、県内約200の社会福祉法人などで構成する「滋賀の縁創造実践センター」(草津市)が目指す。せつかく始まった試みを県内全域に広げようと、手始めに協力が得られた特別養護老人ホームで来月、不登校児を対象にした居場所づくりを始める。

一方、課題もある。トワイライトステイの活動は、今年4月に施行される「生活困窮者自立支援法」のモデル事業だったため、今年度の活動資金は全額国の補助で賄えた。しかし、来年度はこの補助がなくなる。また、学生メンバー約20人のうち半数は4年で、今年度に卒業してしまつたため、新たな担い手の確保が急務だ。活動の立ち上げに携わった幸重さんは「子供が子供らしくいられる時間をつくってあげたい。地域の中で育てた子供が元気になれば、地域にも活気が生まれるはず」と力を込める。東京都豊島区で同じような取り組みに携わる「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」の栗林知絵子理事長は「子供たちと年齢の近い学生が活動に参加するのは重要。活動に学生が入ることで、問題を考え社会を変えるきっかけになるはずだ」とエールを送っている。

子どもの貧困対策に取り組む 幸重 忠孝さんに聞く



「今後の子どもの貧困対策には、学校が果たす役割が大きくなる」と語る幸重忠孝さん（長岡市）

学校、福祉機関連携を

00年に児童虐待防止法が施行され、対策の結果、『しつけ』でなく『犯罪』という意識に変わった。一方、子どもの貧困対策は昨年施行されたばかり。として、取り組んでいくことを待ったなしの今の状況を改善すべく、打ち出したのは評価できる。特に支援していく必要がある。

「ゆきしげ・ただたか」 1973年岡山県生まれ、花園大学大学院修了。京都市内の児童養護施設などを経て、2011年に子ども家庭福祉を専門とした幸重社会福祉士事務所を設立。代表を務めるほか、滋賀県教委SSWのスーパーバイザー、花園などの非常勤講師。共著に「子どもたちとつくる 貧困とひとりぼっちのなごみ」(かもがわ出版)がある。

国は昨年8月、貧しい家庭の子どもの教育や生活を支援するための「貧困対策大綱」を策定した。重点施策の筆頭に位置付けられたのは「教育の支援」。スクールソーシャルワーカー(SSW)の増員や、生活困窮世帯への学習支援の充実など、学校を核にした取り組みを掲げている。社会福祉士の資格を持つSSWとして、滋賀県内で子どもの居場所づくりや学習支援に取り組む幸重忠孝さん(41)は、教育現場に求められる貧困対策を聞いた。

幸重さんは研修会のため、長岡市を訪れた。

「国の2012年調査では6人に1人が貧困状態に陥っている。粘り強く社会に啓発し、人一人の子どもの貧困状態に気づいていくしかない。市民や行政、政治家が現実を直視しなければ、子どもの貧困問題は前に進みません。子どもと親の力で解決できないのが子どもの貧困。虐待はきかないのだから」

「今いるSSWは、社会福祉士の国家資格を持たない元教員が少なくない。約1万人の配置は中学校単位に1人の割合だが、その質は厳しく問われる。これまでは虐待への対応が中心で、貧困問題とは間接的な関わりしかできていなかった。ひとり親の置かれた経済環境や、学力不振、非行などが貧困と結び付いていることも多い。先生の相談役となることも必要だ。先生と連携して、子どもを育てていく必要がある」

「現在、SSWは全国で約千人。国は15年度からの5年間で約1万人に増やす目標です。」

「だし、学校はこれまで、児童相談所などの行政機関との連携が中心だった。福祉に精通したSSWと協力することで、福祉や民間の関係機関など連携した支援が可能になる」

「居場所」すべての子に



女子大学生(左)と一緒に勉強する女子小学生(中央)の様子を撮影する越市長(大津市)

トワイライトステイ 越市長が視察

【大津】親が仕事などで夜に不在になる家庭の子供たちを受け入れる「トワイライトステイ」を先月20日夜、大津市の越市長が初めて視察した。事業を進めている社会福祉士の幸重忠孝さんが取り組みの成果を報告。「他にも居場所を必要としている子供たちが多くいる」と市の支援の拡大を求めた。

【竹下理子】

「市は支援拡大を」担当者

トワイライトは「たそがれ時」の意味。事業は、市内のNPOメンバーが今年度スタートした。や龍谷大の学生がボランティアとして宿題を見守る。一環だが、大津市は昨年度から市社会福祉協議会に委託し、市内のNPO事務所などから20日ほど実施している。事業は、夜だけで週に20日はNPO法人「あゆみ」の事務所(大津市野原)で開かれていた。必要としている子供たちが他にもいるなら、取り組みを拡げていくようにしたい」と話した。

親が仕事などで夜に不在になる家庭の子供たちを受け入れる「トワイライトステイ」を先月20日夜、大津市の越市長が初めて視察した。事業を進めている社会福祉士の幸重忠孝さんが取り組みの成果を報告。「他にも居場所を必要としている子供たちが多くいる」と市の支援の拡大を求めた。

【竹下理子】

「市は支援拡大を」担当者

トワイライトは「たそがれ時」の意味。事業は、市内のNPOメンバーが今年度スタートした。や龍谷大の学生がボランティアとして宿題を見守る。一環だが、大津市は昨年度から市社会福祉協議会に委託し、市内のNPO事務所などから20日ほど実施している。事業は、夜だけで週に20日はNPO法人「あゆみ」の事務所(大津市野原)で開かれていた。必要としている子供たちが他にもいるなら、取り組みを拡げていくようにしたい」と話した。

現代の

ことば

ゆきしげ 幸重
ただたか 忠孝

最近、学校や子どものことを扱った新聞記事やニュースの中にスクールソーシャルワーカーのことが話題になることが増えてきた。

私がスクールソーシャルワーカーとして学校現場に入ったのが2007年度であるが、そのころは全国にはまだ100人程度しかスクールソーシャルワーカーがいなかった。それが今では約2千人に

拡大し、さらに文部科学省は5年後には1万人に増員する計画をたてている。

スクールソーシャルワーカーとはその名の通り学校現場で働くソーシャルワーカー（生活に困っている、不安を抱えている、疎外されている人に対して社会福祉学を基にソーシャルワークを用いて支援する相談援助職）である。学校生活で困ることと言え

スクールソーシャルワーカー



ば、代表的なものに学校に行けない不登校、いじめ問題などがあげられる。当然スクールソーシャルワーカーとして勤務する中でこれらの課題を抱える子どもたちにくさん出会ってきた。

プライベートの配慮から再構成しながら一つのエピソードを紹介する。

ある不登校の女の子がいた。朝、起きられないために

学校へ登校してこない。そして放課後、登校ということで他の子どもたちが帰った後の学校に登校してくる。なぜ朝起きられないのかを担任の先生が本人に尋ねると、深夜にテレビを見ていたり、スマホで動画を見ていて気がついたら朝になってそのまま寝てしまつてしまう。先生は本人がだらしない生活をしているから学校に来られないと思ひ厳しく指導するが、なかなか彼女の昼夜逆転生活は解消しな

い。保護者にも協力してもらおうと夜更かしをさせないようをお願いをするが、そもそもひとりで親家庭で親が仕事から帰ってくるのが朝方で、「私も疲れて眠っているの子どもを朝に起こすことは無理です」と言われてしまう。

そのような状況に困った担任の先生からスクールソーシャルワーカーに相談がきた。スクールソーシャルワーカーの支援は様々な情報を集めるところからはじまる。様々な情報を集めて整理をしていく中で、彼女の昼夜逆転生活と姉が高校を中退した時期が重なることに気がつく。さらに姉の情報を集めると、親がいない夜に、姉の部屋が姉の友人たち

のたまり場になっていることがわかってくる。

情報が集めてある程度の仮説が考えられたところでスクールソーシャルワーカーは子どもに尋ねる。「夜にお姉ちゃんの友達がたくさんうちに来るとどうさなくて眠れないね」「うん。だからヘッドホンしていつもテレビや動画を見ちゃうんだ」

子どもを取り巻く悲惨な事件が続く。しかし子どもたちは自ら大人にSOSを求めることは難しい。だからこそ学校の先生とは違う切り口で子どもや保護者に問いかける存在が必要なのだ。(幸重社会福祉士事務所代表)

現代の

ことば

ゆきしげ 幸重
ただたか 忠孝

景気回復の社会状況とは逆に子どもへの相対的貧困率は厚労省が2014年に報告した最新の数値では2012年時点

で16.3%と過去最悪を記録し、実に約6人に1人の子どもが相対的貧困家庭で育っている状態となっている。

このような危機的な状況を改善すべく、子どもの貧困対策の推進に関する法律や生活困窮者自立支援法などが制定され国をあげて子どもの貧困への対策がはじまった。また

今年、京都府は全国の自治体に先駆けて「京都府子どもの貧困対策推進計画」を策定した。

そのこともあってか今年に入り全国各地で「子どもの貧困をテーマにする学習会に呼ばれることが急増した。ところがこれだけ厳しい数値が出ていても、講演前の控室で

「うちの地域、学校には貧困家庭の子はいませんが、社会問題なので今日は学ばせてもらいます」などの声をか

子どもの貧困



けられることは決して少なくない。

なぜこのように子どもたちの危機に大人や社会が気づかないのかという点、「貧困問題は見ようとしなければ見えない社会課題だからである。例えば街を歩く人たちを見てその人の家庭の世帯年収を見

た目で当てることなどできない。個人情報保護が重要とされる社会の中で、子どもの家庭が経済的に困窮状態なのかを大人や社会が外から見て気

がつくことは難しい。

そして子どもたちが子ども時代から貧困を語ることはままならない。小さな子どもたちは思春期に入るぐらいまで他者と比べて自分の家庭が貧困であることに気がついていないことも多い。やがて思春期に入ると友達の家と比べる頃からはお金がなくて困っていることに気がつく。その時には、今度はその事実をまわりに知られたくないと感じ、必死に隠そうとする。

しかし大人や社会がきちんと見ようとするれば子どもたちの生活や言動から貧困で苦しみを抱えていることが見えてくる。例えば宿題や持ち物をいつも忘れてくる子ども。表

面的にしか見なかったら知らない不真面目な子に見える。でも電気が止められて夜になると真っ暗な中で生活し、宿題や明日の準備ができないのかもしれない。身なりが不潔で体臭がきついためいじめにあっている子ども。カスガとまってお風呂にお湯を張れないために清潔にできないのかもしれない。

さらに多くの貧困課題は低温やけつのようにじわじわと子どもを苦しめる。例えば親が夜遅くまで働いていて夕食はいつも一人で食べる冷凍食品のみ。温かい食卓を知らずに成長する子ども。虫歯の痛みがきついても親に「歯医者に行くお金を頂戴」と言えず

歯痛を我慢している高校生。友達と遊びにいったファストフードに寄ってもお金がないので「私タイエット中だから」とごまかして水しか頼まない子ども。子どもたちはそのような経験を繰り返す中で「どうせうちの家は」と人生をあきらめて大人になっていく。そのような家庭で暮らす子どもたちにとって、大人や社会がよく子どもに語る「自分が努力すれば報われる」というメッセージが、いかに残酷で心を切り裂いている言葉であるのかを大人や社会は自覚すべきである。家庭の貧困は子ども自身が努力しても解決しない問題なのだから。(幸重社会福祉士事務所代表)